

第471回7月23日開催
出席委員（50音順・敬称略）

荒巻 裕	木下 明美
倉光 弘己	黒田 勇
櫻井 美幸	深井 麗雄
森 輝彦	

テレビ番組

「映像'02 炎のダンス

～ツッパリ先生と60人の子どもたち～」

7月14日（日）深夜0時30分～1時30分 放送分

櫻井委員

子どもたちの群舞の美しさやスピードといったダンスそのものの迫力と、先生の間人的な魅力も伝わってきて非常に良い番組だと思った。

また、子どもたちの内のひとりの女子生徒にナレーションをさせていたのは、説得力があってとても良かったと思う。

ただ、先生がなぜダンスを取り上げたのかなどの説明がもっとほしかった。

深井委員

主役は、番組の作り方からすると子どもたちだが、見ていると明らかに先生だと思った。どうもドラマの「金八先生」とダブってしまい、少し違和感を覚えた。また、先生や子どもたちの負の側面を入れるなど重層的な描写もほしかった。そうすれば、プラスの面が一層浮き彫りにされたのではないか。

木下委員

番組の主役は確かに先生だったかもしれないが、私は子供たちの表情を追いかけるほうに興味があった。

言葉はとつとつとしているが、その表情から胸の中に溜めていた思いを精一杯語っているということが十分に読み取れた。そしてその子供たちの表情をきちっととらえていたカメラワークもすばらしかったと思う。

黒田委員

この番組は、それぞれの立場で幅広い読みができるドキュメンタリーだと思う。

私自身もいろいろ考えて見たが、教師のあるべき姿といったような形で読んでもよいのかなと思った。

いずれにしても、簡単に結論の出ない、非常に混沌としたものを我々の前に提示したという意味で、ドキュメンタリーとして高い評価をしたいと思う。

倉光委員

仕事で毎日、生きている意味がわからないと思えるような学生を相手にしている身からすると、自分を忘れて目的に向かって突き進む子どもたちを見て、ある意味で感動した。

また、今の教育現場にああいった先生がいるということだけで、私としては非常に元気づけられたのはまちがいない。

荒巻委員

番組を見ながら、今の子どもたちや学生は何を一番求めているのだろうかということを考えていた。それは、番組の中の言葉を借りれば「輝く場」ということではないか。今の学校の中には輝く場というものがないのかどうか、今度は学校の中を検証する番組をぜひ作ってほしい。

森委員長

非常に優れたドキュメンタリーだと思う。

今の学校教育に問題が非常に多いということ、良い指導者とは何かなどいろいろ考えさせられる番組だ。

主人公の先生のような、体を張って時には怒り、時には嘆き、時には喜ぶということを子どもたちと一緒に出来る先生がもっと出てくると教育現場の雰囲気も変わってくると思う。

新経営体制について

6月27日の株主総会をもって発足した新経営体制について山本社長が報告した。

テレビ番組「ウルトラマンコスモス」の放送再開について

主演俳優が不起訴処分になったことや視聴者からの強い要望を受けて「ウルトラマンコスモス」の放送再開を決定したことについて編成局長が報告した。